

<8月のギャラリー展示>

『しりとりえほん2』

8月の展示は、一恵さんという人の『しりとりえほん』から、2度目の展示です。一恵さんは、開院のときに小児病棟のニッチの飾りの文字を切り紙で作ってくれたり、イナホ珈琲やレストランのテーブルに置かれた小さな花のカードを作ってくれました。ニッチのギフトとして全部手貼りの「しりとりえほん」も仲間と共に贈ってくれました。その小さなしりとりの本は、最後の数ページは真っ白です。病院に居るこども達が、たとえハサミをで紙を切らなくても、心の中で次のしりとりはなにかな？と想像してもらえたら、その一瞬が病気のことを忘れる時間になってほしいと、一恵さんの想いからです。前回の展示も、しりとりの最後の「たんぽぽ」のつづきが何かを書いてくださいとお願いしたら、A4の紙が一杯になるほど書かれていました。見てくださっているんだと、とても嬉しい気持ちになりました。有り難うございました。今回も最後の「ごぼう」のつづきが何か、みなさんに思いつく言葉を書いていただきたいです。ここに来てくださるみなさんと、会えなくても紙のコミュニケーションをしながら、共にこの場所の展示を豊かにできることを願っています。

『展示搬入の裏話』

いつも屋上庭園のボランティアをしてくれているSちゃんが、今月はギャラリーの搬入を初めて手伝ってくれました。

マスキングテープでしりとりの順番に矢印を貼る作業をお願いしたら、Sちゃんはジグザグの矢印やマスキングテープの幅を変えた矢印など、楽しくて元気な矢印を描いてくれました。みんなで一緒に手と心を動かすことが、始めるときには想像できない豊かな世界をつくると、気づかせてもらった今月の搬入時間。

